

122 ^{がちりんじあと} 月輪寺跡 ^{せきぞうかさとうば} の石造笠塔婆



指 定 市有形文化財 昭和61年 9 月10日
 所在地 印 内
 所有者 印 内 区



凝灰岩の長方形角柱上部前後面に、阿弥陀如来、大日如来、観音菩薩の種子（梵子）を薬研彫（V字形彫り）し、台石上に立て笠石を載せた単独のものが造法とされているが、この塔を連続連結し「コ」の字型結界とした鎌倉時代の類例のない塔であることが石造美術の権威である大手前女子大教授川勝政太郎博士の調査で判明している（昭和51年〈1976〉8月21日信毎）。当時、この地方の豪族望月氏により建立されたものである。